

ハートがたくさんの村づくり

差別のない、人への思いやりを大切にする、明るい南阿蘇村をつくりましょう。

人権とはなんですか？

人権とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」であって、だれにとっても大切なもの、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。今回も、「子どもの虐待」についてお伝えします。

子どもの虐待について

虐待を受けた子どもたち

虐待で家庭から保護された子どもたちは、その後どこで暮らしているのでしょうか。

(先月号の続き)

情緒障害児短期治療施設

情緒障害児短期治療施設は、軽度の情緒障害を有する児童を、短期間入所させ、または保護者の下から通わせて、その情緒障害を治し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設とされています。

厚生労働省のまとめでは、2011年10月末現在、全国に37カ所の情緒障害児短期治療施設があり、1178人の子どもたちが在籍していました。

職員には精神科あるいは小児科医師、心理療法職員、児童指導員、保育士、看護師などを配置しています。職員数はおおむね児童10人につき1人を配置しており、一人ひとりの子どもの

ケアに重点を置いた施設です。

他の児童施設と同じく、情緒障害児短期治療施設にも、虐待を受けた児童の入所が増加しています。重い虐待により心に深い傷を負った子どもたちに対応するために、被虐待児個別対応職員を配置しています。また、保護者や家族関係を改善する家族療法も実施しています。

さらに乳児院と同じく、2005年度から、小規模なグループによるケアを実施しています。

母子生活支援施設

母子生活支援施設は、配偶者のない女子またはこれに準ずる事情にある女子およびその者の監護すべき児童を入所させて、これらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援することを目的とする施設とされています。以前は「母子寮」という名前でしたが1998年の児童福祉法の改正により現在の名称になりました。

配偶者のない母親などと18歳

までの子どもが入所でき、必要なら20歳までここで生活でき、自立の促進のために生活を支援しています。

厚生労働省のまとめでは、2011年10月末現在で全国に261カ所の施設に、3850世帯、6015人の児童が生活をしています。

入所の理由は、夫などの暴力、経済的理由、住宅事情などが挙げられます。また「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」による一時保護施設としても、母子生活支援施設が必要とされています。夫からドメスティック・バイオレンス（家庭内暴力）を受けている母親とその子どもを保護し、自立支援を進めるための重要な施設となっています。

※来月も、子どもの虐待について紹介します。

村民みんなで「ハートがたくさん」の村をつくりましょう。

役場 人権対策課